

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、令和元（2019）年は 679 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、令和元（2019）年は 873 トンとなりました。

2. 令和 2（2020）年 1～2 月の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に 1 トンの水揚げで、前年の 1%，平年の 3% でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 65 トンの水揚げで、前年の 566%，平年の 47% でした。

3. 令和 2（2020）年 4～6 月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。

来遊量は西薩海域は、低調だった前年を上回り、平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域は、前年並で、平年を上回ると考えられます。

（根拠）

西薩海域では直近の漁模様から、低調だった前年を上回り、平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様から、前年並で、平年を上回ると考えられます。

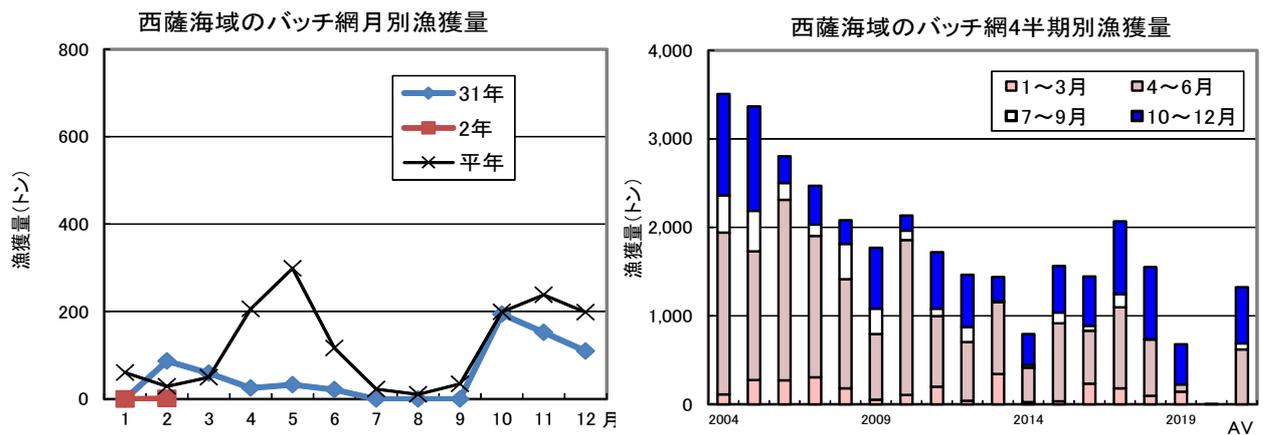


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化（4 漁協計）

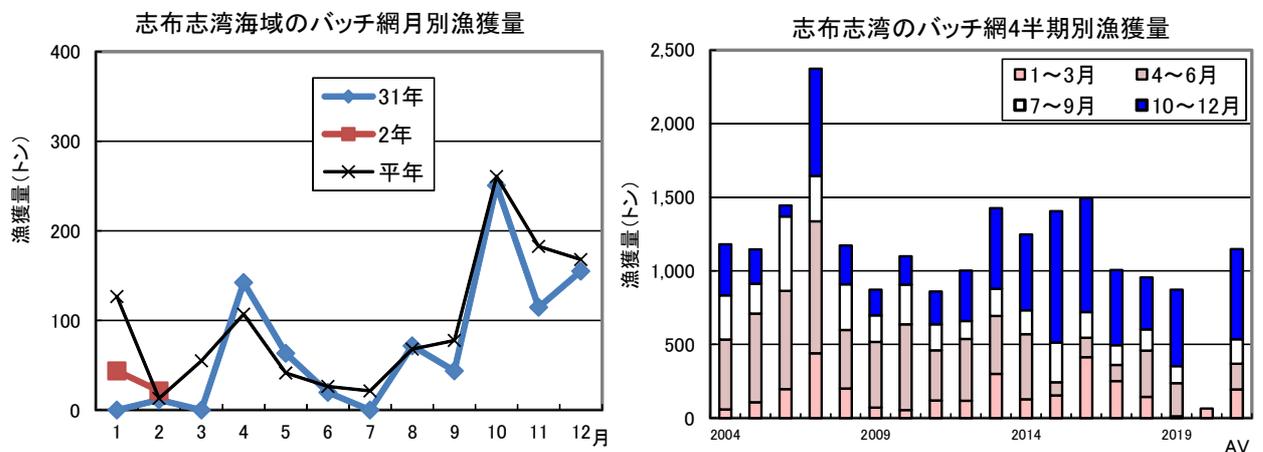


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化（2 漁協計）

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)，令和 2（2020）年 2 月 29 日までの水揚げ量を使用